

# 経済マンスリー [原油]

## 原油価格は上昇するも、需給は逼迫していない

原油価格（WTI 期近物）は 7 月以降、上昇傾向にある（第 1 図）。米メキシコ湾岸へのハリケーン襲来や中東諸国の情勢緊迫による供給懸念が買い材料となった。さらに、9 月 13 日の米連邦準備制度理事会（FRB）の追加金融緩和を受けて需要増加期待が高まったことから、原油価格は上昇し、14 日には 99.00 ドルと 5 月以来の高値となった。その後、米国の戦略備蓄の放出観測やサウジアラビア増産の報道等を受け、原油価格は下落に転じ、足元では 92 ドル前後で推移している。

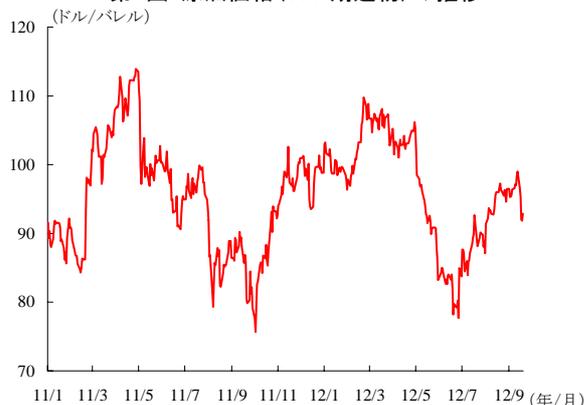
最近の原油価格上昇に対して警戒が強まっているが、供給拡大の必要性については見解が分かれている。

8 月末、先進 7 カ国（G7）は石油市場を緊密に監視している旨の緊急声明を発表し、国際エネルギー機関（IEA）への石油備蓄放出の要請を示唆した。米国も戦略備蓄放出の可能性に触れているが、大統領選を控えてエネルギー政策が争点の一つになっている国内事情もあろう。

他方、供給は不足していないとの見方もある。9 月中旬、IEA と石油輸出国機構（OPEC）の両事務局長は「石油市場の供給は十分」と発言しているほか、サウジアラビア石油相は原油価格上昇への懸念を示しながらも「足元の原油高は市場の需給では裏付けられない」としている。

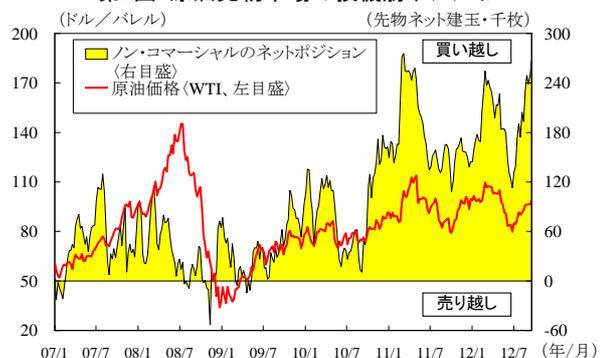
世界の原油需給バランスをみると、1～6 月期は大幅な供給超過（＝在庫積み増し）となっており、OPEC の産油量も高水準で推移している。深刻な供給不足は生じていないとみてよいだろう。しかしながら、需給逼迫に対する懸念が高まったことから、投機筋の買い越し額は急拡大し（第 2 図）、価格を押し上げたとみられる。足元の原油価格は下落しているが需給逼迫懸念は根強く、下値は限定的となろう。

第1図：原油価格（WTI期近物）の推移



(資料) Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第2図：原油先物市場の投機筋ポジション



(注) ノン・コマーシャルとは、原油生産や精製に従事しない業者のこと。

1枚=1,000バレル。

(資料) 米国商品先物取引委員会、ニューヨークマーカンタイル取引所資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 石丸 康宏 yasuhiko\_ishimaru@mufg.jp  
篠原 令子 reiko\_shinohara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。